

世界自然遺産登録の条件

世界自然遺産に登録されるためには、以下の3つの条件を満たす必要があります。

- 1 次の4つの評価基準の1つ以上に当てはまること
 - 自然美
ひととき優れた自然現象や自然美を持つ地域
 - 地形・地質
地球の歴史や過去の生命の証拠となる、重要な地形・地質などがよく現れている地域
 - 生態系
生物の進化などの見本となるような、極めて特徴のある生態系がある地域
 - 生物多様性
世界的に絶滅のおそれのある生き物や生物多様性の保全上最も重要な生物が暮らす地域
- 2 世界遺産として適切な広さがあり、開発などの影響を受けず、自然の本来の姿が保たれていること
- 3 世界遺産としての価値を将来に渡って維持できるように、保護のための取組が十分に行われていること

日本国内では、奄美のほかにも4つの地域が世界自然遺産に登録されています。

鹿児島県 | 屋久島
面積約10,700ha
～樹齢千年以上のヤクスギと森～
登録年:1993年
評価基準:自然美,生態系

鹿児島県・沖縄県 | 奄美大島、徳之島、
沖縄島北部及び西表島
面積約42,700ha
登録年:2021年 評価基準:生物多様性

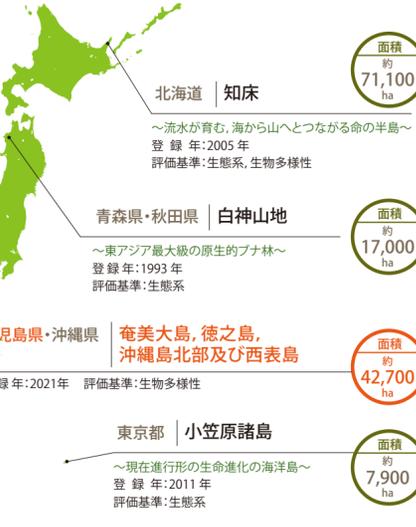
東京都 | 小笠原諸島
面積約7,900ha
～現在進行形の生命進化の海洋島～
登録年:2011年
評価基準:生態系

奄美の世界自然遺産登録

奄美群島の奄美大島と徳之島は、アマミノクロウサギなどの絶滅危惧種を含む動植物の生息・生育地です。奄美群島の成り立ちを反映した独自の生物進化を背景とした、国際的にも希少な固有種に代表される生物多様性保全上重要な地域です。

この「生物多様性」が評価され、沖縄島北部、西表島とともに、2021年7月に世界自然遺産に登録されました。

これにより、鹿児島県は、屋久島と合わせて2つの世界自然遺産を有する国内で唯一の都道府県になりました。



希少種が生き残った奄美大島・徳之島

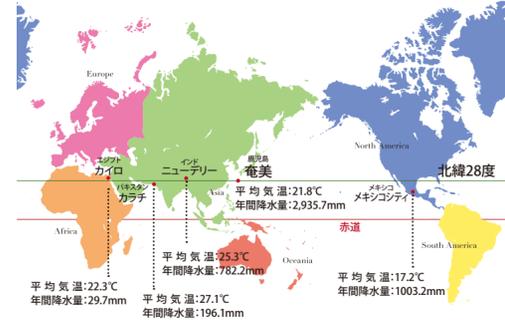
奄美群島は、かつてはユーラシア大陸や日本本土と陸続きでしたが、約200万年前までに大陸から切り離され、現在の島へと分かれていきました。大陸と離れた種の中には、大陸にいた同じ種や近い関係の種は絶滅したり、天敵がいなかったりしたことなどから、生き残ることができたものがあります。このように、元々は周辺にも広く分布していた種が、環境の変化などにより特定の地域だけが残ったものを「遺存固有種」と呼びます。(例:アマミノクロウサギ、ケナガネズミなど)

また、大陸から切り離された後、奄美大島と徳之島は近くの島々とくっついたり離れたりしながら現在の姿となり、生物はそれぞれの島に隔離され、異なる種へと分化していきました。このように、元々1つの種が、様々な地域に分かれて違う種に進化したものを「新固有種」と呼びます。(例:アマミトゲネズミ、オビトカゲモドキなど)



特異な奄美の環境

奄美群島は高温の夏と比較的温和な冬がある亜熱帯気候に属します。世界の亜熱帯地域の多くは、砂漠などの乾燥地帯になっていますが、群島のそばを流れる暖かい黒潮とモンスーン(季節風)が雨をもたらし、常緑広葉樹の森が発達しており、多くの種類の生物のすみかとなっています。



奄美

世界自然遺産登録

奄美大島・徳之島 沖縄島北部及び西表島

世界遺産とは

世界遺産とは、人類共通のかけがえない財産、将来の世代に引き継ぐべき宝として、「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」(世界遺産条約)に基づいて登録された自然地域や遺跡などのことです。

自然遺産、文化遺産、複合遺産の3種類があります。

自然遺産 Natural heritage

保存・観賞・学術上重要な普遍的価値を持つ地形、生態系、生物多様性などがある地域
(例:屋久島、グランドキャニオン、イグアスの滝など)

文化遺産 Cultural heritage

歴史・芸術・学術上重要な普遍的価値を持つ記念物、建築物群、遺跡など
(例:明治日本の産業革命遺産、姫路城、ピラミッドなど)

複合遺産 Mixed heritage

自然遺産と文化遺産の両方の要件を満たしているもの
(例:マチュピチュ、タスマニア原生地域など)

奄美大島・徳之島に生息・生育する希少な生物

奄美大島と徳之島の面積は、2島合わせても日本全体の0.26%程度しかありません。しかし、世界でもここでしか見られない珍しい生物を含む、いろいろな動植物が生息・生育しています。奄美大島と徳之島で見られる両生類の約9割、陸生哺乳類と爬虫類の約6割はここでしか見られない種です。



アマミノクロウサギ



ケナガネズミ



アマミトゲネズミ



トクノシマトゲネズミ



ルリカケス



アカヒゲ



アマミヤマシギ



アマミシカワガエル



アマミハナサキガエル



オビトカゲモドキ



リュウキュウアサギマダラ



アマミエビネ



アマミセイシカ

奄美の島々を巡る

世界自然遺産 奄美トレイル
Amami World Heritage Trail

新しい出会い 発見を探そう!

全14エリア, 51コース / 総延長約550km

自然保護のために!

自然保護上重要な地域を保全するため、**金作原(奄美大島)や林道山クビリ線(徳之島)などでは、利用ルールを定めています。**ルールへのご理解とご協力をお願いします。

- 自然を楽しみたい方は、**奄美群島認定エコツアールガイド(有料)の同行が必要**です。ガイドが混雑緩和・安全確保のための予定の調整を行いますので、事前予約してください。
- 研究や教育、撮影の目的で通行したい方は、**事前の申請手続きが必要**です。金作原については、名瀬森林事務所(0997-52-4531)へ、林道山クビリ線については、徳之島町役場(0997-82-1111)へお問合せください。
- ※利用者に制限を設けている地域があります。制限を超えた場合、利用できないことがありますので、ご注意ください。

自然を楽しむために!

- 動物や昆虫を捕まえたり、植物を採取したりしないでください。奄美群島の希少な動植物の多くは、法律などで守られています。それらの生物を捕まえたり採取したりした場合は、罰則などが科せられます。動物や植物は、見るが撮影するだけにして、思い出の中や写真で楽しんでください。
- 車はゆっくり走ってください。夜間の道路には様々な生物が出てきます。近年、アマミノクロウサギなどの交通事故が後を絶ちません。車を運転する際は、ゆっくり走ってください。

- ハブなど危険生物に気を付けてください。奄美大島と徳之島には、猛毒を持つハブが生息しています。草むら、木の枝やうろ、川辺などに潜んでいることが多いので、足元や頭上にご注意ください。ほかにも、ハチ、ブユ、マダニなどに刺されたり噛まれたりしないよう、長袖や長ズボンを着用したり、虫除けスプレーを使ってください。
- 外来種を持ち込まないでください。外来種は、奄美群島に元々生息・生育している動植物を食べたり、生息・生育地を奪ったりするおそれがあります。奄美群島に元々いない生物を持ち込まないようにしてください。

「世界自然遺産 奄美トレイル」は、九州と沖縄との間に連なる奄美群島の8つの有人島をつなぐ長距離の自然歩道です。世界自然遺産の奄美大島と徳之島、デイゴ並木が美しい加計呂麻島、珍しい昆虫や花が見られる請島、サンゴの石垣が残る与路島、世界有数のスピードで隆起するサンゴ礁の島の喜界島、花と鍾乳洞の島の沖永良部島、白い砂浜とヨロンブルーの海が美しい与論島。個性あふれる8つの島で、奄美群島ならではの自然、そこで育まれた文化にふれ合うことができます。

奄美の「宝」が世界の「宝」へ

発行年:2021年
発行者:鹿児島県環境林務部
自然保護課奄美世界自然遺産登録推進室
〒890-8577 鹿児島県鹿児島市池新町10-1
TEL:099-286-2759 FAX:099-286-5546

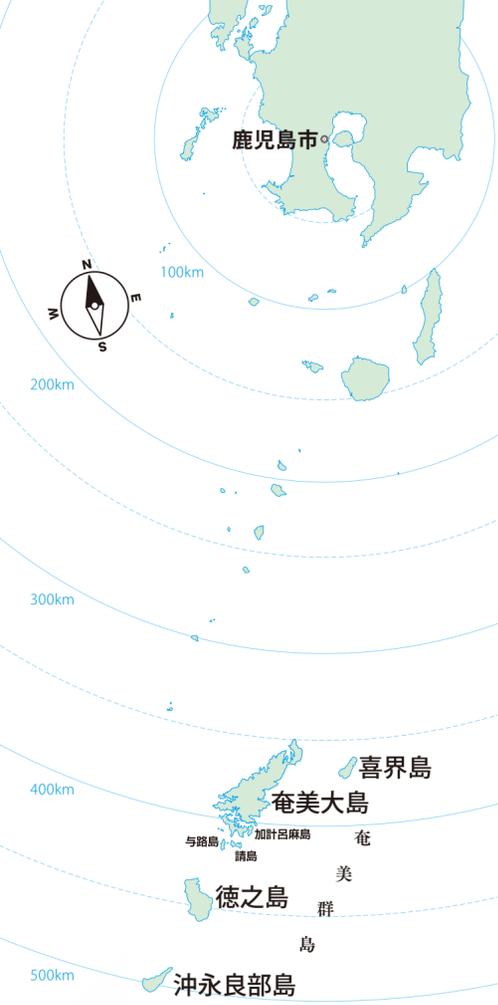


鹿児島県



Amami Islands

奄美群島の自然を、魅力をもっと知りたい！



奄美自然観察の森
奄美大島の自然を気軽に楽しめる施設。自然を生かした広い園内には、遊歩道や展望台が整備されており、奄美固有の植物や野鳥、昆虫などを観察しながら散歩することができる。



きんさくぼる
金作原

スタジイやイジュなどの常緑広葉樹を主体とした森林。巨大なヒカゲヘゴなどの亜熱帯植物が茂り、国指定天然記念物のルリカケスやアカヒゲなど、希少な生物も生息している。自然を楽しみたい方は、奄美群島認定エコツアーガイド(有料)の同行が必要。



- 世界自然遺産登録区域
- 緩衝地帯
- 奄美群島国立公園区域(陸域)
- 奄美群島国立公園区域(海域)

※世界自然遺産登録区域及び緩衝地帯は、主に奄美群島国立公園に指定されています。

奄美大島 Amami-Oshima Island

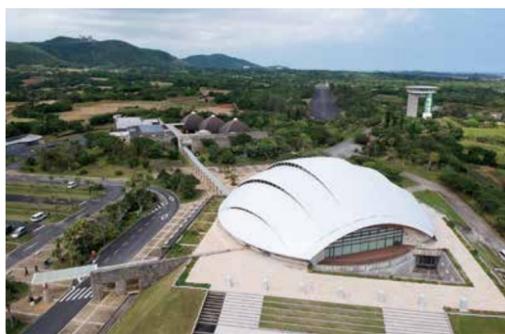


すみよう
住用のマングローブ林
(世界遺産センター(仮称)の整備)
奄美市住用町の海水と淡水が交わる汽水域に広がるマングローブ原生林。西表島に次いで国内2番目に広い。カヌー散策を楽しむことができる。道の駅奄美大島住用では、マングローブ館でリュウキュウアユの飼育展示を行っているほか、世界遺産センター(仮称)を整備中である。



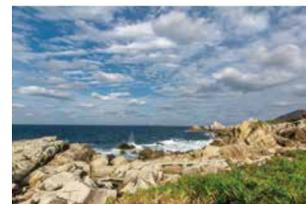
奄美パーク

奄美群島の自然・歴史・文化を紹介する観光拠点施設。交流の場としての「奄美の郷」と奄美を描いた孤高の画家の「田中一村記念美術館」が併設されている。



ムシロ瀬

屋久島以南の南西諸島には珍しい花崗岩の巨岩が続く海岸線。歩道が整備されており、岩々の間を歩くことができる。



アマミノクロウサギ
観察小屋



アマミノクロウサギを夜間撮影しており、その映像を見ることができる。事前予約が必要となるため、天城町役場(0997-85-3111)へお問合せを。

徳之島 Tokunoshima Island



いのかわだけ
井之川岳

標高645m、徳之島の最高峰で、奄美群島では湯湾岳に次いで2番目に高い。国立公園特別保護地区に指定され、アマミノクロウサギやトクノシマトゲネズミなど希少な生物が生息している。



いぬたぶみさき
犬田布岬

隆起したサンゴ礁が浸食されてきた海食崖が特徴で、その断崖景観は奄美群島随一のスケールを誇る。



奄美野生生物保護センター

希少な野生生物に関する調査・研究、保護増殖、普及啓発などを推進するための拠点施設。奄美群島の自然に関するさまざまな展示を行っており、島ごとの特徴や生物について知ることができる。

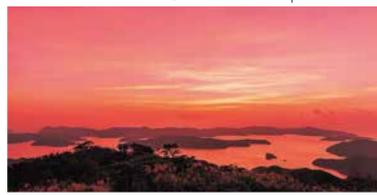


ゆわんだけ
湯湾岳

標高694m、奄美群島の最高峰。奄美大島を作った二神が降り立ったと言われる。国立公園特別保護地区に指定され、アマミノクロウサギなど希少な生物が生息している。

ゆいだけ
油井岳展望台

360°パノラマビューで朝日、夕日も堪能できる見どころ満載の場所。大島海峡と加計呂麻島を一望できる。



Yoron Island 与論島

鹿児島県の最南端にある隆起サンゴ礁でできた小さな島で、奄美と琉球が混ざった独特の文化を持つ。死ぬまでに行きたい絶景にも紹介された「百合ヶ浜」や透明度の高いヨロンブルーの海は訪れた人を魅了している。



Okinoerabu Island 沖永良部島

隆起サンゴ礁からなるオカリナ型の島。島の地下には200~300近い鍾乳洞が点在し、ケイビングを目的に全国から観光客が訪れている。また、えらぶゆり(テッポウユリ)やスプレー菊など様々な花が栽培されている。



島のスポットガイド

Spot for Amami's nature